

September 5, 2019

【前日の為替概況】ドル円、4日ぶり反発 英伊政局リスク後退や香港情勢の好転で

4日のニューヨーク外国為替市場でドル円は4営業日ぶりに反発。終値は106.39円と前営業日NY終値(105.94円)と比べて45銭程度のドル高水準だった。香港政府はこの日、「逃亡犯条例」改正案を撤回すると正式に表明。また、イタリアでは左派「五つ星運動」と中道左派「民主党」などによる連立政権が発足したほか、英国では下院で欧州連合(EU)からの「合意なき離脱」を阻止する離脱延期法案が可決した。英伊の政局リスク後退や香港情勢の好転で投資家心理が改善し、円売り・ドル買いが出やすい地合いとなった。前日の高値106.39円や2日の高値106.40円を上抜けて一時106.44円まで値を上げた。

なお、ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁は「先行きを注視し、適切に行動する用意がある」と述べた一方、「今のところ米経済は良好な状態にある」との認識を示したが、相場の反応は限られた。

ユーロドルは続伸。終値は1.1035ドルと前営業日NY終値(1.0974ドル)と比べて0.0061ドル程度のユーロ高水準だった。英伊の政局リスク後退や香港情勢の好転で投資家心理が改善し、ユーロ買い・ドル売りが優勢となった。対カナダドル中心に米ドル売りが進んだ影響も受けて、一時1.1038ドルと日通し高値を更新した。ユーロ円は3日ぶりに反発。終値は117.40円と前営業日NY終値(116.26円)と比べて1円14銭程度のユーロ高水準。欧米株価の上昇を背景に投資家のリスク志向が改善すると円売り・ユーロ買いが強まり一時本日高値となる117.44円まで値を上げた。

カナダドルは堅調。カナダ銀行(BOC、中央銀行)はこの日、市場予想通り政策金利を現行の1.75%に据え置くことを決めたものの、声明では「現在の緩和的な金融政策は依然として適切」「カナダ経済は潜在的状態に近く、インフレは目標を達成」などと指摘した。市場では「世界的に中央銀行による緩和期待が広がるなかで、将来の利下げに関する言及がなく早期利下げ観測が後退。カナダドル買いを誘った」との声が聞かれた。米ドルカナダドルは一時1.3219カナダドル、カナダドル円は80.50円までカナダドル高に振れた。WTI原油先物価格が大幅に上昇したことも産油国通貨とされるカナダドルの買いを促した。

ポンドドルは堅調。英議会下院は4日、EUからの「合意なき離脱」を阻止するための法案を賛成多数で可決。法案は上院に送られて成立する可能性が高い。「合意なき離脱」が回避されるとの期待からポンド買いが優勢となり、一時1.2258ドルと本日高値を付けた。なお、ジョンソン首相は10月15日に総選挙を実施することを提案したものの、議会はこの動議を否決した。

【本日の東京為替見通し】英・伊・香港のリスク減退でドル円は底堅く推移か

本日の東京市場のドル円は、106円前半で底堅い推移となるか。英・伊・香港のリスクが減退したことで、世界的に株式市場が堅調に推移した。本日のアジア株式市場も上昇が期待でき、ドル円も連れてリスクオンになり底堅い動きになりそうだ。昨日のCME225先物は、大阪取引所の4日の引け値から115円上昇して引けていることで、日経平均も3桁の上げ幅は期待できそうだ。ドル円は底堅い動きとなるだろうが、8月6日に107.09円まで上昇した以後は、一度も107円を超えることができていないことで、上昇局面では実需や投資家が手堅くドル売りをする意欲も強く、大きな上昇を期待するのも難しいだろう。特にリスク要因がわずかながら改善したとはいえ、米中通商協議が一向に改善をみせないことや、ドル高に嫌悪感をもっているトランプ米大統領が対円での円安を容認するとも考えにくいことで、上値を追いかけて買うのも難しいだろう。9月末の国連会議で日米間の通商協議の最終合意が発表され、為替条項などが加わるリスクが依然としてあることもドル買いを積極的に仕込むのは難しい。

また、東京時間の23時に8月米サプライマネジメント協会(ISM)非製造業指数に注目が集まっていることも値動きを狭めそうだ。3日に発表されたISMの製造業指数が49.1という結果になり、景況の強弱を判断する節目50を3年8カ月ぶりに下回ったことで、本日ももし市場予想(54.0)より弱い結果となった場合はドル売りに再び拍車がかかる可能性があり、市場は指標結果を確かめるまでは動きにくい。

ドル円以外の通貨は引き続き豪ドルと、ポンドの動きに注目したい。豪州からは7月の貿易収支が発表される。今週発表された豪準備銀行(RBA)の政策金利、小売売上高、国内総生産(GDP)と比較すると注目度は低い。しかし、豪ドル/ドルは堅調に推移し、この1カ月以上超えることができない0.68ドル前半を抜け切れるのか、水準的に注目が集まっている。ポンドは議会がジョンソン英首相の思惑通りに動かず、10月末のブレグジットができない可能性が高まりつつある。ジョンソン英首相にとって求心力が落ちてきていることもあり、首相の次の手次第でポンドは大きく上下する可能性もまだあるため警戒したい。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）

<海外>

○10:30 ◇ 7月豪貿易収支（予想：74億豪ドルの黒字）

○14:45 ◎ 4-6月期スイス国内総生産（GDP、予想：前期比0.2%／前年比0.9%）

○15:00 ◎ 7月独製造業新規受注（予想：前月比▲1.5%／前年同月比▲4.2%）

○16:00 ◎ デギンドス欧州中央銀行（ECB）副総裁、講演

○16:30 ◎ スウェーデン中銀、政策金利発表（予想：▲0.25%で据え置き）

○18:00 ◎ 4-6月期南アフリカ経常収支（予想：1345億ランドの赤字）

○20:30 ◇ 8月米企業の人員削減数（チャレンジャー・グレイ・アンド・クリスマス社調べ）

○21:15 ☆ 8月ADP全米雇用報告（予想：14.9万人）

○21:30 ◇ 4-6月期米非農業部門労働生産性・改定値（予想：前期比2.2%）

○21:30 ◎ 前週分の米新規失業保険申請件数／失業保険継続受給者数（予想：21.5万件／168.5万人）

○22:00 ◎ 8月ロシア消費者物価指数（CPI、予想：前月比▲0.2%）

○22:45 ◎ 8月米サービス部門購買担当者景気指数（PMI）改定値（予想：50.9）

○22:45 ◎ 8月米総合PMI改定値

○23:00 ◎ 7月米製造業新規受注（予想：前月比1.0%）

○23:00 ☆ 8月米サプライマネジメント協会（ISM）非製造業指数（予想：54.0）

○23:30 ◎ テンレイロ英中銀金融政策委員会（MPC）委員、講演

○24:00 ◇ EIA 週間在庫統計

○米財務省 3年、10年、30年債入札条件

○日ロ首脳会談（ロシア・ウラジオストク）

6日

○08:30 ◇ 7月家計調査（消費支出）

○08:30 ◇ 7月毎月勤労統計（現金給与総額）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

- 4日 21:01 ジョンソン英首相
「もし解散・総選挙となれば、10月15日に実施すべき」
5日 03:57
「10月15日の早期総選挙を提案」
- 4日 09:59 黒田日銀総裁
「金融サービスの高度化や新たなサービスの創造が経済成長につながるよう、積極的に取り組みを続けていく」
「フィンテック企業は十分な資金を備えているわけではなく、顧客から寄せられる資金需要への対応が課題」
- 4日 10:40 片岡日銀審議委員
「先制的に政策対応することが重要」
「物価目標と実際の物価上昇率に相応の距離がある現状では、金融緩和を強化することが必要だと判断」
「今年後半以降とされてきた世界経済の回復のタイミングが後ずれし、かつ回復の程度も小幅にとどまる可能性が高まっている」
- 4日 17:55 ラガルド IMF(国際通貨基金)専務理事
「非伝統的金融政策の負の側面に留意すべき」
「インフレ率は依然として低迷しており、量的金融緩和策が必要」
「ユーロ圏経済は、リスクに直面している」
4日 20:12
「『whatever it takes』という言葉を使わないことを望む」
- 4日 18:56 林鄭香港行政長官
「逃亡犯条例改正案を撤回する」
- 4日 20:36 中国国務院
「景気支援で預金準備率の引き下げを活用」
「中国は慎重な金融政策を維持」
「消費者物価の安定に努める」
- 4日 22:25 カーニーBOE(イングランド銀行)総裁
「合意なき離脱の最悪シナリオ、GDP5.5%減と前回8%減からは改善」
「金融システムの中核はブレグジットに耐えることができる」
「もし準備期間が延びれば、さらに対応可能に」
- 4日 22:27 ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁
「米経済は好ましい状況」
「米経済はリスクと不確実性に直面」
「先行きを注視し、適切に行動する」
「9月FOMCの結果について早まった判断をしない」
「FRBは2%のインフレ目標を達成する必要がある」
「FRBは政治的要因に左右されない」
「利回り曲線の反転はリスク指標だが、実体経済のデータに基づいて政策を決定する」
「2019年の米経済は2.0-2.5%の成長トレンドを上回ると期待」
- 4日 23:00 BOC(カナダ銀行)声明
「カナダ経済は潜在的状態に近く、インフレは目標を達成している」
「貿易摩擦の激化と関連する不確実性は、世界およびカナダ経済に打撃を与えている」
「現在の緩和的な金融政策は依然として適切」
「将来の政策を決定するにあたり、世界の動向とカナダの成長、インフレ見通しへの影響を注視」
「米中貿易摩擦の激化で世界貿易は縮小。投資は弱まった」
「7月予測よりも世界経済の勢いに大きく影響」
「米経済成長は緩やかながら堅調。消費者および政府支出に支えられている」
「世界成長見通しに対する懸念が高まるにつれて、商品価格は下落した」
「インフレ率は目標の2%」
「7月CPIインフレは、主に一時的な要因で予想よりも強かった」
「カナダの第2四半期の成長は力強く、7月予想を上回った。ただ、この強さの一部は一時的なものと予想される」
- 4日 23:18 カプラン米ダラス連銀総裁
「貿易量が減少する中で製造業が弱いのは驚きではない」
「消費は堅調であり、よって米国経済は強弱入り混じる状況」
「予測されるリスクは下向き」
「金利低下は景気を刺激している」
「最近の減速は、通商摩擦への不透明感や世界経済の弱さによるもの」

5日 01:46 トランプ米大統領

「中国は我々と合意したがっており、ここからどうなるか見てみたい」

「イランは、交渉から合意することを望んでいる」

「安全性で問題がある中国ファーウェイとは取引しない」

「中国の米債売却リスクは心配していない」

5日 02:16 カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁

「鈍い賃金の伸びは、完全雇用ではないことを示している」

「米経済が過熱している事実は見当たらない」

「インフレ兆候がでるまでは、FRBは米経済のブレーキを踏むべきではない」

「逆イールドカーブが現状、最も懸念されるシグナル」

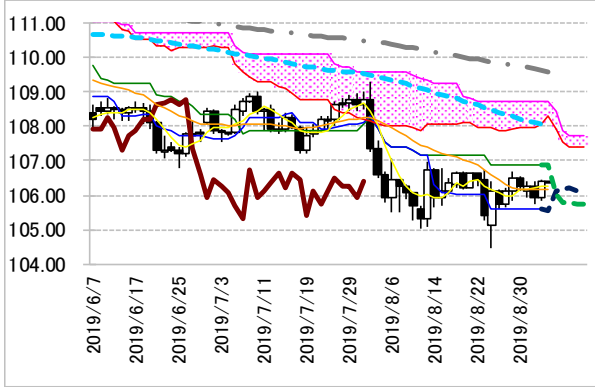
「もし政治的圧力に屈したら、それはFRBの仕事ではない」

「FRBは米ドルの水準をターゲットにしていない」

「もし景気後退シグナルが点灯し続けたならば、FRBはできることをすべき」

※時間は日本時間

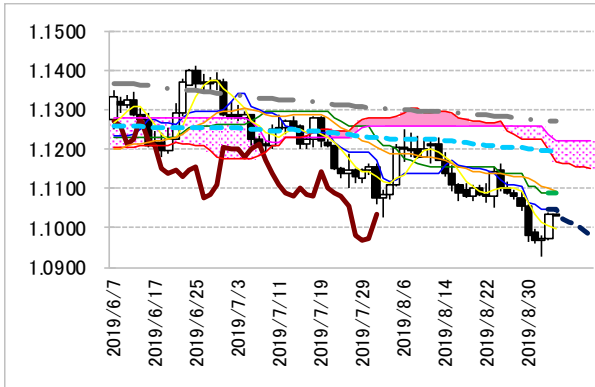
〔日足一目均衡表分析〕



<ドル円＝転換線・基準線レンジからの上放れ期待>

陽線引け。一目均衡表・転換線と基準線に挟まれたレンジ内の、106.15円前後で底打ちへ転じつつある21日移動平均線付近の上下が続いている。やや底堅さが感じられ、基準線を上抜く展開が見通せる。だが、基準線をこなし後の支えを期待する転換線は、そのタイミングでいったん低下する可能性がある。基準線をこなしでも、下押した場合の目先の支えがなければ、相場推移が不安定になるリスクはある。

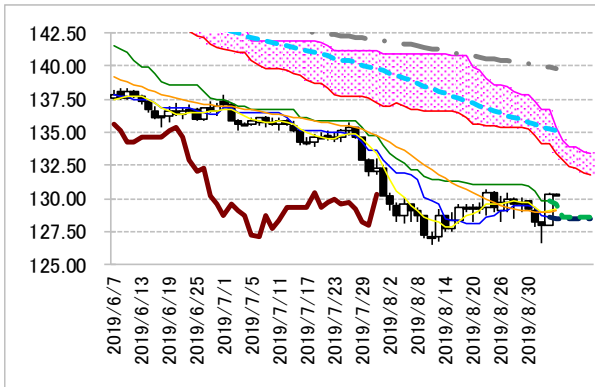
レジスタンス2 107.46(8/1-26下落幅の61.8%戻し)
レジスタンス1 106.89(日足一目均衡表・基準線)
前日終値 106.39
サポート1 105.74(9/3安値)



<ユーロドル＝転換線付近の攻防>

陽線引け。本日1.1045ドルに位置する一目均衡表・転換線の抵抗をこなしの上伸を期待するが、低下中の同線前後では動きが停滞しそう。現水準に踏み止まり、転換線が水準をさげるのを待ち、日柄の経過を味方につける格好で同線付近の重さを克服する展開を想定する。

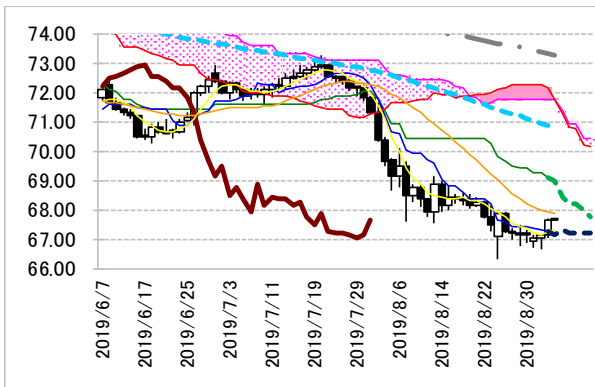
レジスタンス1 1.1088(日足一目均衡表・基準線)
前日終値 1.1035
サポート1 1.0969(9/4安値)



<ポンド円＝反転上昇パターンWボトム形成へ>

太陽線引け。8月12日につけた2016年11月以来の安値126.55円目前で下げ渋り、反転底入れパターンのダブルボトムを形成しつつある。8月22日高値130.70円を上抜けばフォーメーションが成立。ただ、急激な上昇で拙速に同パターンを作りに行く、セオリーどおりの値動きにならない「ダマシ」となることがある。小幅な陰線を形成して足場を固めた後に、ポイントの130.70円をじわりと上回るような状態が望まれる。

レジスタンス1 130.70(8/22高値)
前日終値 130.34
サポート1 129.23(5日移動平均線)



<NZドル円＝上伸するにしてもペースは緩慢か>

下影陽線引け。年初来の安値圏で足場を固める状態を経て上昇へ転じた。目先の抵抗だった一目均衡表・転換線をこなし、21日移動平均線を試す展開となっている。ただ、21日線は67.86円前後で水準を切り下げる過程にあり、抵抗となりそう。転換線もまだ低下傾向。横ばいとなってサポートとして下押し局面で十分に機能するまでには少し時間がかかるだろう。現在69円付近に位置する一目・基準線も今後の低下が急角度となりそう。強い抵抗になると考えられる。上伸するにしてもスピードは緩慢かもしれない。

レジスタンス1 68.15(ピボット・レジスタンス2)
前日終値 67.66
サポート1 67.02(9/4安値)

